

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科の特色を生かし、生涯を通じて学び続けることのできる学力を備え、社会に貢献し、豊かに人生を送ることのできる人材を育成する。

- 1 深い学び…思考力・判断力・表現力を育成し、知識を基に個々の学びを深めることのできる学校
- 2 進路実現…進路選択の基礎となる確かな学力の定着を図り、生涯にわたって学び続ける力を育成する学校
- 3 共生推進教室設置校…違いを認め合い「ともに学び、ともに育つ」学校、一人ひとりの存在が大切にされる学校
- 4 地域からの信頼…行きたい学校、行かせたい学校として地域から信頼される学校

2 中期的目標

1 自らの進路を切り開くことのできる確かな学力の育成

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行う。

- ・自ら授業力向上に努めるだけでなく、相互授業見学、公開授業、研究協議、研修等により、授業改善に努める。
- ・ICTを活用した授業など各種工夫を取り入れた魅力ある授業をつくる。
- ・次期学習指導要領の改訂にともない、新教育課程の検討を進める。

※興味関心を持って取り組むことのできる授業が多い H29：58%→2020年：75%

(2) 生徒の学びを支援する進路指導に係る各種取り組みを実施する。

- ・体験的な学びの充実等、進路について自ら考える機会をつくり、生徒の学びのモチベーションを高める。
- ・補習や講習、進路カウンセリング等の充実により、満足する進路が実現できることをめざす。
- ・家庭学習（授業外学習）に取り組む力の育成を図る。
- ・英語資格試験、漢字検定などの資格取得を積極的に推進する。

※自分が決めた進路に満足 H29：84%→2020年：90%

※国公立大学、有名私立大学への進学実績の向上 国公立H29：3名→2020年：5名、関関同立H29：49名→2020年：60名の合格

2 自尊感情、自己肯定感や探究心を育み、学びを深める教育活動の実践

(1) 学校行事や部活動を通じて様々な人とかわりながら物事を成し遂げる調整力やコミュニケーション力など人間関係力の育成を図る。

- ・共生推進教室の生徒と総合学科生徒との交流の機会を持ち、インクルーシブ教育の推進を図る。
- ・教職員および生徒の人権教育を充実し、生徒一人ひとりの存在が大切にされ、学校生活を楽しむことのできる学習環境を整える。

(2) ボランティア活動・地域交流への取り組みを促し、自己肯定感を育む。

(3) 国際交流を推進し、国際的な視野を育み、異文化理解を深める。

3 安全で安心な学校づくり

(1) 授業規律の確立、一丸となった生徒指導、挨拶、言葉かけ、校内美化・清掃の取り組みを行うとともに、過ごしやすい学習環境を整える。

(2) 教育相談体制を充実させ、いじめ防止に取り組み、安心して学校生活を送れる環境を整える。

(3) 人権教育の充実を図り、一人ひとりの存在を大切に学校づくりをすすめる。

4 学校の組織力向上及び学校の魅力の発信

(1) 学校の教育目標を共有し、チームとして学校の教育活動に取り組む組織作りを行う。

- ・PDCAサイクルを活用し、学校課題の解決を図る。
- ・研修の成果を共有し、教育課題及びGood Practiceへの理解を深める。
- ・教職員の働き方改革に取り組み、教職員一人ひとりの意識改革を推進しながら、時間外勤務時間数の削減に努める。

(2) 学校の魅力の発信

- ・学校説明会において、教職員及び生徒が協力して学校の魅力の発信に取り組む。
- ・学校Webページ、ブログ、広報資料等を活用して、学校の活動及び魅力が鮮明に伝わるように創意工夫、情報更新を行う。

※学校説明会での中学生満足度 H29：90%→2020年：90%以上を維持しながらさらに上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>併記数値はH29→H30の意味。保護者は548人提出で回収率66%であった。 生：生徒、保：保護者、教：教職員 の意味で略記している。</p> <p>【学校生活】 ・「学校へ行くのが楽しい」生76%→77%、保83%→81%、「学校に信頼できる友達がいる」生92%→91%、保92%→92% の肯定であった。</p> <p>【学習指導】 ・「自分の学力にあった授業が多い」生77%→82%、「興味関心を持って取り組むことのできる授業が多い。」生58%→69%と肯定率が増加した。 ・「勉強と部活動の両立ができていく」生60%→65%、保71%→71%、「部活動を通して生徒が達成感を得られるように指導している」教100%→100%、府の方針に基づく学校部活動方針の策定に則り、適切な活動を行っていく必要がある。</p> <p>【生徒指導】 ・「学校生活についての先生の指導には納得できる」生42%→44%と少し増加したが未だ低い。説得と納得に基づく指導に取り組んでいきたい。「先生はいじめなど、困っていることに真剣に対応してくれる。」生69%→74%と増加した。</p> <p>【情報提供】 ・「ホームページや携帯メールの内容は適切」保90%→94%、「学校のホームページを見ることがある。」生30%→40%、保65%→79%と大幅に増加した。</p>	<p><第1回 6月15日実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶はコミュニケーションの始まり。先生から生徒への挨拶が人間関係を構築し、生徒指導の納得感にもつながる。 ・ホームページのレイアウトを検索し易いように工夫してはどうか。 ・今後いろいろな「しかけ」をおこなうことによって、ボランティア活動を活性化させてほしい。地域行事との連携も検討した方がよい。 <p><第2回 11月16日実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学科の魅力は科目。新学習指導要領を踏まえたカリキュラム編成にあたっては、総合学科として魅力的ある科目の設定をする必要がある。議論や発表をとおした探究の要素が含まれるなど自己実現とどう結び付くかが鍵である。 ・ペアレンティングのように、地域と連携した授業で子どもたちは良い経験ができていく。今後も地域との連携を密にしていけることが必要である。 <p><第3回 1月25日実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学進学実績だけでは、学校のアピールのインパクトが少ない。総合学科のメリットをもっと強く打ち出すことが必要である。 ・今年度実施した保護者との合同研修会は、とても意義がある。今後もこのような取り組みをおこなっていくことが望ましい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自らの進路を切り開くことのできる 確かな学力の育成	(1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業 ア 授業研究委員会 イ ICT 活用推進委員会 ウ 新教育課程の検討 (2) 生徒の学びを支援する進路指導に係る各種取組み ア 青雲道場の実施、学習習慣の定着 イ 英語学力調査	(1) ア・授業研究委員会により、教育情報の共有化や教育課題の共有を図る。 ・相互授業見学、公開授業・研究協議を行い授業力の向上を図る。 イ・ICT 活用推進委員会により、機器を整備し、ICT を活用した授業を推進する。 ウ・次期学習指導要領の改訂にともない、新教育課程の検討を開始する。 (2) ア・青雲道場（補習や講習、勉強合宿、大勉強会、自習室など）を実施する。 ・青雲道場の活用に加え、授業での課題や小テスト等、学習習慣の定着を図る。 イ・英語学力調査を学年全体対象に実施する。	(1) ア・主体的・対話的な授業 60%（新規） ・授業者への明るいシート（感想）の作成 2 回/人（H29：2.2 回） イ・ICT を活用した授業 61%（H29：57%） ウ・新教育課程の検討開始 (2) ア・家庭学習（授業外学習）1 時間以上 55%（H29：51%） ・勉強と部活動との両立 64%（H29：60%） イ・2 つの学年で実施（H29：非実施）	(1) ア・机のレイアウトを変える等の工夫により学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学びに向けた指導方法の工夫・改善を行なっている」の肯定率は 71%であった（◎） イ・明るいシートは本年実施せず。教科毎の「工夫を凝らした授業の相互見学」に変更した。（△） ・学校教育自己診断「コンピューター等の情報機器を活用している」肯定率は 55%であった（△） ウ・育成支援チーム事業とタイアップし、年間 2 回の全体研修と 1 回の PT 会議を実施した。（○） （2）ア・教育自己診断「学校の授業以外に平均 1 時間以上学習している。」肯定率 45%であった（△） ・教育自己診断「勉強と部活動の両立ができています」肯定率 65%と目標を達成した。（○） イ・「GTEC」を 1・2 学年で実施。次年度に向けての組織体制を整えた（○）
2 自尊感情、自己肯定感や探究心を 育み、学びを深める教育活動の実践	(1) 人間関係力の育成を図る ア 部活動 イ 学校行事 ウ 共生推進教室・総合学科交流行事 (2) 自己肯定感の育み ア ボランティア活動・地域交流 (3) 国際交流の推進 ア 国際交流の推進	(1) ア・新入生に説明会を実施し部活動の加入を推進し、人間関係を築く力を育てる。 イ・学校行事において、生徒の主体性に任せる部分を取り入れながら、改善に努める。 ウ・共生推進教室の生徒と総合学科生徒との交流行事を実施して一層理解を深める (2) ア・部活動や個人参加も含めて学校全体としてボランティア活動・地域交流を積極的に推進する。 (3) ア・本年度の One Day Trip を実施しながら、次年度の国際交流の新企画を策定する。	(1) ア・部活動加入率：80%台維持（H29：84%） イ・行事が楽しい 80%（H29：77%） ウ・交流行事の実施 2 回以上（H29：2 回） (2) ア・学年単位での校外清掃 1・2 年各 1 回（H29：同じ） ・その校外清掃以外のボランティア活動・地域交流参加 60 名以上（H29：60 名） (3) ア・国際交流の新企画を策定	(1) ア 部活動加入率は 80%であった。次年度は、部活動方針に即した効果的活動をめざす。（○） イ 「行事が楽しい」73%と 4%減少した。主体性を尊重しながら、来年度は肯定率向上をめざす。（△） ウ 例年実施している夏と冬の交流行事は総合学科の生徒が多く参加した。さらに今年度はプロジェクトマップを実施し、好評であった。（○） （2）・校外清掃は、2 年生が新センタープレテストと重なったため 27 名の参加にとどまった。（△） ・ボランティア活動は災害支援などに 26 名、地域交流は地域総合防災訓練などに 17 名、計 43 名が参加した。取組みは学校行事で内外に発信した。（△） （3）A F S 日本協会協力のもと、高校交換留学生との交流事業を実施する。具体的には、5 名程度の海外からの留学生に本校に来ていただき、各国の文化の紹介やゲームによる交流をおこなう。日程は、2020 年の 2 月ごろを予定している。（○）
3 安全で安心な学校づくり	(1) 生徒指導、遅刻指導、仲間づくり、過ごしやすい学習環境 ア 生徒指導・遅刻指導 イ 生徒間の信頼関係 ウ 学習環境 (2) 教育相談体制の充実 ア 学校全体での取組み (3) 人権教育の充実 ア 人権研修	(1) ア・学校全体で取り組む遅刻指導を継続する。 ・生徒に寄り添いながら丁寧に対応し、生徒指導への納得感を高める。 イ・1 年次生で仲間づくり研修を実施して生徒間の信頼関係の構築を図る。 ウ・校内の設備・備品を整備し、過ごしやすい学習環境をつくる。 (2) ア・生徒情報の共有化を図り、学校全体で取り組む。 (3) ア・教職員、生徒対象の人権研修を実施し、対応力の充実を図る。	(1) ア・遅刻者数 1000 名未満維持（H29：945 名） ・先生の指導に納得 50%（H29：42%） イ・信頼できる友だちの存在 92%維持（H29：92%） ・クラスに話しやすい雰囲気 86%（H29：84%） ウ・施設・設備に満足 50%（H29：44%） (2) ア・生徒情報の共有化を図りチームで対応 90%（H29：89%） (3) ア・職員研修 1 回（H29：1 回）	(1) ア・遅刻者数は 1024 名で目標には届かなかった（△）が、良好な状況は続いている。引き続き、組織的な取り組みを推進していく。 ・「先生の指導に納得できる」（44%）肯定率は高くなったが、目標値には届かなかった（△）。 イ・「信頼できる友達がいる」生徒肯定率 91%と目標に届かなかった。（△）一方で、保護者は 92%と目標に達している。（○） ・「クラスに話しやすい雰囲気がある」生徒肯定率 81%と目標値に達しなかった。（△） ウ・施設・設備の満足度は 52%であった。（○） （2）ア・生徒指導案件など問題事象発生の際、生徒情報共有化のための関係者会議を丁寧に開き対応したことにより「生徒情報の共有化を図りチームで対応」肯定率は 91%と目標に達した（○） （3）2 回の教職員研修に加え P T A 合同研修も行った。「人権課題について教職員で話し合っている」肯定率が 67%（H30：59%）と大きく向上した。（◎）
4 学校の組織力の向上及び 学校の魅力の発信	(1) チームとして学校の教育活動に取り組む組織作り ア 研修成果や教育課題の共有 イ 働き方改革 (2) 学校の魅力の発信 ア 学校説明会 イ 学校 Web ページ・ブログ・広報資料	(1) ア・研修の成果や教育課題、Good Practice を共有する機会やミーティングを設け、話題にすることにより、チームとして教育活動に取り組む組織をめざす。 イ・全校一斉退庁日については、曜日について吟味し、再設定を行うとともに、ノークラブデーの確実な実施を行う。 ・時間外勤務時間について、前年度と比較した資料を毎月配付する。 (2) ア・教職員及び生徒がともに、学校の魅力づくりを意識して行動する。学校説明会において、教職員及び生徒が協力して学校の魅力の発信に取り組む。 イ・学校 Web ページ、ブログ、広報資料をこまめに更新して、学校の活動及び魅力を鮮明に伝える。	(1) ア・研修報告の成果の共有 88%（H29：84%） ・教育活動について、日常的に話し合っている 84%（H29：80%） イ・時間外勤務時間の資料を毎月作成し、各教職員に配付 (2) ア・学校説明会での中学生満足度 90%維持（H29：90%） イ・ブログ（学年、部活動、青雲道場、校長）の更新 200 回（H29.4～1 月：146 回）	(1) ア・職員会議等の場で、研修結果の報告などをおこなった。また、府の「育成支援チーム」事業を活用するなど、本校教育活動について全職員で話をする機会を年 2 回設けた。教職員自己診断「研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝える機会が設けられている。」は、向上はしたものの 87%と目標には届かなかった。（△）また「教育活動全般について、教職員で日常的に話し合っている」肯定率は昨年度なみの 79%にとどまった。（△） イ・ノークラブデーについて各部へアンケートを行ない、確実に実施されていることを確認した。（○） ・時間外勤務の前年度との比較資料は、計画通りに配付することができなかった。（△） （2）ア・中学生の満足度は 90%であった。（○） イ・更新回数はおおよそ 400 回と大きく目標を上回り、丁寧な情報提供を行なった。結果、「ホームページを見ることもある。」の肯定的回答は保護者が 79%（昨年比 14%アップ）生徒 40%（昨年比 10%アップ）と大きく増加した。（◎）